

# tamtam

2021.3  
VOL.09

P1 [特集]「ふれあい、遊び、学び合う」  
氷上子育て学習センター

P2 [特集]子育て学習センターの  
役割と地域に必要な視点

P3 隣の自治協さん「生郷自治振興会」  
丹波市民、学びの窓「獣害-変遷と地域対策」

P4 繋ぐ!市民活動「遊森 -yushin-」  
活動事業者紹介「神崎紙器工業株式会社」

## SPECIAL FEATURE

## 今号の特集

## 氷上子育て学習センター 「ふれあい、遊び、学び合う」



丹波市市民プラザ内にある氷上子育て学習センターは、「地域子育て支援拠点」として設置されています。「地域子育て支援拠点」とは、子どもの健やかな育成と生活保障を掲げる「児童福祉法」に位置付けられた社会福祉事業の1つです。2014年から全国的に行われている事業で、背景には核家族化や地域とのつながりの希薄化による子育て世代の孤立など課題があります。丹波市でも厚生労働省の同事業実施要綱に基づき、地域ごとに子育て学習センターが設置されています。各地域で子どもを持つ親たちを対象に学習の場や日常的に相談できる環境を

整えるとともに、各センターで地域ごとの特性を活かした様々なイベントを開催しています。

子育て学習センターは「子どもの遊び場」と認識されがちですが、子どもだけでなく親が学び、交流する場としての役割も果たしています。丹波市でも近年、自治会未加入等で地域とのつながりが持てない子育て世帯があり、子育て学習センターはこのような世帯にも広く周知される施設として地域と初めてつながりを持つ場所になっています。今回の特集では子育てを応援する氷上子育て学習センターについてご紹介します。



丹波市市民活動支援センター  
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

## Topics 01 子育て学習センターの役割と地域に必要な視点

氷上子育て学習センターが商業施設内にできたことで、より子育て世代が訪れやすい場所になりました。ここでは子育て学習センターの役割、事業を紹介するとともに地域社会においても必要な子育ての視点についてご紹介します。

### 役割

子育ては決して家庭の中で完結するものではなく、情報収集する機会が必要です。そのため、子育て学習センターは様々な人たちとの関わりや同じ悩みを持つ親同士の交流を促し、情報を提供しながら親たちが自主的に学び、課題を解決できるようサポートしています。このような支援が活動基盤をつくり、親たちの市民活動や地域参加を始める後押しにもつながっています。

### 地域社会での視点

子育ての課題は家庭の課題であると同時に地域社会の課題でもあります。子育てにあたり前はありません。本などで得た情報も時には有効ですが、子育ての問題は会話の中から気づくものがほとんどです。そのため、子育てをする環境においても家庭以外とのつながりを持ち、日常的な会話ができる関係づくりが重要です。

### 事業紹介



#### 子育て相談

18歳までの子どもを持つ親を対象に、子育ての悩み相談に対応しています。



#### 情報提供

子育てに関する情報や資料を提供しています。



#### 子育て講座・教室の開催

家庭教育についての講演や講座など体験を通して学ぶ場を提供しています。



#### グループ活動支援

活動の場を提供し、活動のリーダー育成や講師の紹介などの支援を行っています。

## Topics 02 利用者の声

氷上子育て学習センターを利用する方の多くは氷上地域に住む、0歳から小学校に通うまでの子どもを持つお母さんやお父さんですが、場所柄、その他の地域の方も集まる場所となっています。それぞれのお母さんやお父さんの声を聞いてみました。

### センターを利用して変化したことは？

自治会でのつながりがなかったり、地域との関わり合いが持てないぶん、ここで同じ世代、子どもを育てている者同士が関わることがありがたい。子どもと家の中で一対一だと息が詰まるのでセンターは発散できる場所になっている。

### センターを利用して変化したことは？

子育て指導員への相談や同じ子育て世代との交流を通して以前より心の余裕ができた。ここに来ると友達がいるので子どもたちの目もキラキラしている。遊びの幅も広がり、子どもとの関わり方が良くなつたと感じる。

### 同じ子育て世代とつながりを持ってよかったです？

子育て情報の交換ができ、助かった。特に保育園やこども園の情報が共有できてよかったです。他にも悩みを相談してスッキリできた。年齢の近い子どもが集まるので利用者みんなで子どもの成長を喜び、見守ることができている。

このようにセンターは多くの子育て世代の居場所や支える場所の1つになっています。子育て世代の言葉にも耳を傾けることは地域福祉を考える上での柱になります。これから地域を考え、活動する中でセンターの取り組みを参考にしてはいかがでしょうか？

# さん自隣りの TONARI no JICHIKYO san

## 生郷自治振興会

### 市内の各地域を結ぶ立地特性

生郷自治振興会は、氷上地域南東部の東小学校校区に位置し、人口約4,600人、約1,900世帯、11自治会と各種団体で構成されています。生郷という名称は、1907年の町村合併で石生村の「生」と本郷村の「郷」を合わせて作られました。旧氷上町の頃は東地区という名称でしたが、2004年に改めて生郷地区と呼称することになりました。

振興会では地区の将来像として、「みんなで創ろう！よりよい生郷（ふるさと）」を目指して、自治会選出委員や各種団体代表などで構成された「人づくり委員会・環境づくり委員会・魅力づくり委員会」の3つの部会を中心に事業を行っています。また、スポーツクラブ21氷上東、丹波生郷国際交流協会、水分れフィールドミュージアム友の会、生郷里山づくり懇話会などが振興会と連携しながら活発な活動を続けています。

### 長年の伝統と新しい都市機能のバランス

生郷地区は、将来推計では2060年頃の人口が現在の2%程度の減少、高齢化率の上昇も比較的少なく、市内では珍しい人口動態となっています。市内の中心地という利便性もあり、周辺からの流入も多いと推測されますが、自治会加入率は低く、アパート等の増加もあって、住民同士の交流やつながりが薄れているとの指摘もあります。さらに、近年の豪雨災害などから広域の治山治水が大きな課題となっていて、住民の声をまとめる振興会の役割がより重要になっています。

実際の事業としては、50年の歴史を持つ東小学校鼓笛隊への支援から生まれた「生郷（ふるさと）音楽祭」や、30年以上続く「水分れまつり」、本州で最も低い分水嶺を紹介する「観光案内板や駐車場の整備」など、住民が育んできた地域の資源を活かす活動を中心に取り組んでいます。最近では県立丹波医療センターや認定こども園、氷上回廊水分れフィールドミュージアムなどの新しい施設との連携が始まり、今後の事業展開が期待されます。



丹波医療センターの清掃



水分れ周辺の里山づくり

## 丹波市民、学びの窓

### 獣害の変遷と地域での対策

野生動物による農業被害額は全国で約158億円（2019年度、農林水産省）、丹波市内でも約3900万円（2018年度、丹波市）にも上ります。家屋侵入や交通事故、身の危険を感じるような精神的被害など広く鳥獣害被害と捉えると、無関係な市民は少ないのではないかでしょうか。

そんな野生動物との関係性も時代とともに大きく変わってきました。明治から昭和にかけて、産業の近代化、人口の急激な増加、近代狩猟具の普及により、シカやイノシシなどは著しく減少します。減りすぎた動物の保護や狩猟の秩序維持のため、メスジカの禁猟などの保護施策が実施されます。合わせて燃料革命や化学肥料の普及に

よる里山利用の激減、その他の要因により絶滅しかけていた野生動物が急増します。

TAMBA地域づくり大学2020の講座でも、皆さんの関心が高い地域課題の1つとして「獣害」がテーマとなり、動物ごとの特徴やその対策について話がありました。獣害対策の研究も進み、防護柵の適切な設置や誘引物の除去、出没しにくい環境づくりによって被害を抑える方法は確立しています。しかし、積極的な対策には人手が必要となり、他の地域課題と同様に「担い手不足」を理由に実施できないケースが多くあります。

獣害に疲弊し、農業を止めたり、里山が荒廃すると、ますます動物をおび

き寄せる結果となり、獣害をより防ぎにくいうものにしていきます。また、庭の果樹の放置など、餌場が地域内に1つでもあれば、動物を誘引することになり、個人では解決しづらい問題です。逆に、地域で話すことや、都市部の人たちを巻き込み関係人口を増やすきっかけにしやすいテーマとも言えます。



地域で取り組む獣害対策の講座



## 繋ぐ!市民活動 遊森 -yushin-

森を子どもたちがいきいきと遊べる場にし、森林に興味を持つ人が増えることを目的に設立された『遊森』。市民による森林整備を促進し間伐材を循環させる取り組みである『丹波市木の駅プロジェクト』と連携し、スギとヒノキで真っ暗だった森を『まきんこの森』(春日町野村)として整備しながら活動しています。

昨年12月には近所に、レンタルキッチン『みんなのコミュニティくう＆こた』をオープン。地域住民や森に来る人たちの集いの場になれるよう、カフェを開きたい人のチャレンジ出店を募集。いろいろな人たちが森に興味を持つきっかけとなるよう、森とキッチンの拠点をつなぎ、

マルシェなどのイベントを企画・開催しています。

「活動の中で同じような考えの人と出会うことで、新たな活動につながっていくと感じています。」と話される代表の青木美子さんが、有志の仲間と始めたのが『プロジェクト0.551和-まきんこの森から行く！水分れ縦走登山道』です。まきんこの森から登って、反対側の水分れ公園との間の登山道を開拓中で、春には開通式を予定しています。森を通して人をつなぎ、森と地域の未来を明るくしていこうと取り組んでいます。



まきんこの森で遊ぶ子どもたち



拠点くう＆こたの前で代表の青木さん



### 活動事業者紹介

#### 神崎紙器工業株式会社

主に段ボール製造を行う会社として1961年尼崎市に創業し、1976年に氷上の地に工場を開設した神崎紙器工業株式会社。「育てていただいた丹波市に恩返ししたいと常に考えている」と語るのは、氷上工場開設と同じ年に生まれた副社長の池田大樹さん。

段ボールは通販の拡大、コロナ禍でのおうち時間増加で、需要が伸びている中、複雑な加工や段ボールにプリントする技術も向上、脱プラの再生可能な資材としても注目されています。

環境に配慮した素材と技術力を活かした神崎紙器の地域貢献の1つが、小学校で活用が始まったタブレットのためのイ

ンナーケース。ある先生からの相談をきっかけに製作、市内の学校へ寄付しました。従業員が住むまちの子どもたちのためにという会社の思いとともに、包装設計係の今村浩久さんを中心に、子どもにも意見を聞きながら、試行錯誤を重ね、ケースの種類に合わせて3タイプ作成しました。他にも系列のガソリンスタンドにある段ボールパーテーションに関心を持った「ぬぬぎふれあい食堂」に参加する住民さんの声から、オリジナルのパーテーションを同食堂に寄付したこともあります。

次は夏祭りで楽しめる段ボール製ゲームキットを開発し、地域に届けたいと計画。

これからもニーズやアイデアを聞き取り、高い技術で形にするプロとして地域に必要なものを作り、届けていきます。



氷上工場



インナーケース：試行錯誤の経過、右端が最終形



### 丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内  
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00～18:00（会議室は21:30まで）／休館 毎週月曜日・12月29日～1月3日

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

### 【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんがご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。